

# 東京教区 礼拝音楽 NEWS

## 第4号

2021年2月17日

編集・発行／日本聖公会東京教区 礼拝音楽委員会

reihaiongaku.tko@nssk.org

大齋節を迎えました。コロナ禍での大齋節から聖週、イースターも二巡目です。今号は、独りで思いめぐらすための手がかりになれば、と「聖なる3日間」の祈り（礼拝）の意味を考えてみました。また、礼拝音楽委員が今の思いを聖歌に投影して、あるいは聖歌から導き出される思い…を綴ります。

## 苦難からの復活に向けて

司祭 宮崎 光

「大齋節」の終わり、「聖なる3日間」は、古代の教会から現代まで受け継いできた礼拝があります。主イエスの受難と死と復活を一連の出来事として覚えます。尚、「日」の数え方は、ユダヤ教の伝統に従って日没から数えます。

### 第1日目：聖木曜日の夕から聖金曜日の夜が来るまで

主イエスと弟子たちの「最後の晩餐」が行われた日を起源とする「聖餐式」、また「洗足」が行われることもあります。礼拝の終わりに、「祭壇の装飾物の除去（Stripping of the alter）」、そしてその夜の黙想（The Watch）が推奨されます。教会に集えない今、その光景－質素な祭壇や礼拝堂内部－をイメージしながら、あなたは何を思うでしょうか？

そのまま、「聖金曜日（受苦日）」の出来事へと時は進みます。十字架の道行き、正午からの磔刑における極限の痛み、十字架上で聖語、そして午後3時頃の絶命…。身ぐるみはがされ、すべてを奪われてゆく主イエス。そのみそばに行くこともできずに、離れたところにいるあなたは、「今、この時」に、何をしまししょう、否、何を止めるのでしょうか？

### 第2日目：聖金曜日の夜から聖土曜日の夜が来るまで

聖金曜日の日没から聖土曜日の日中は、とても静かな時間です。イエスが墓に納められた後の、何もしない、すべて動きが止まった時間です。これが「今、この時」においては、どのような意味をもって、何かを語りかけて来るのでしょうか？

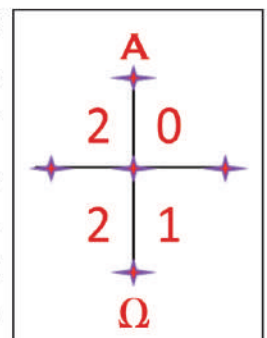
### 第3日目：聖土曜日の夜、復活徹夜祭から復活日の夕の祈りまで

聖土曜日の日没から、「復活の聖なる徹夜祭」（the Easter Vigil）の時を迎えます。主イエスが復活される夜明けを待ち望む、一年中で最も聖なる、祝福された、力みなぎる夜です。

この夜、改めて「今、この時」における「復活」が何であるのか、復活のろうそく（パスカル・キャンドル）の祝福の祈りと共に、黙想しましょう。

「キリストは、昨日であり、今日であり、初めであり、終わりであり、アルファであり、オメガである。すべての時、すべての時代は主に属します。主に栄光と力が、世々にまた永遠に。アーメン」「清い栄光あるみ傷により、主なるキリストがわたしたちを守り、保ってくださいますように。アーメン」

（立教学院チャプレン、聖パウロ教会管理牧師）





祈りと歌を携えて、歩んで行きましょう

## 「今、この時」に携えていたい聖歌とその思い — 礼拝音楽委員による

### 445 「いさおなきわれを」 Just as I am

例年は、十字架を前にしたイエス様の心を深く思いながら過ごしていました。今年は、感染者や医療従事者の困難な状況、また自分を含め不安や恐れの中にいる人の現実が、大きく思いの中に出てきてしまいます。この歌で、十字架にかかられたイエス様が、どんな状況の中でも共にいてくださり、「われ みもとにゆく」という気持ちに変えて行くことができるように思いました。

### 128 「イエスキミ イエスキミ み救いに」

Pass me not, O gentle Saviour

すべての人にとって困難な状況が続いている今年の大齋節、その現実的な心の叫びが主へのよびかけとなり、この聖歌が浮かびました。「主のほかにも…救いなし」という歌詞も今年ほど強く感じることはありません。

### 1 「新しい朝よ目覚めよ」

Today I awake and God is before me

怖れと悩みの中にある現状、それでもなお自らの内にある希望。無理やりでなく、寄り添うように、でも力をもってその希望に光を当て、命の喜びに導いてくれる聖歌です。今日、命が与えられたことが当たり前でなく、そこに感謝を覚える自分でいたい。

### 158 「しおるる心に」 O Traurigkeit, O Herzeleid!

2回目の緊急事態宣言下の大齋節、新型コロナウイルスの感染を抑えるために生活の不自由に耐える期間というイメージが強い。だが、息をひそめていればトンネルを抜けられるだろうということが大齋の過ごし方になってしまったら残念だ。やはりイエスが悩み苦しんだことをもう一度思い起こし、それを乗り越えて復活の朝を迎えたい。すべてが止まったようであるが彼方にかすかな光があるように感じられ、私の中では抱える、携える歌。併せて、146「主の痛み激しきかな」Herzliebester Jesu もしっかりと自らに刻んでおこう。

### 134 「イエスは閉じたる」 O Jesu, Thou art standing

私の心の扉をたたき続けておられるイエスさま。傷だらけになりながら、涙ながらにたたき続けている姿に、あらゆる困難に出遭いながら、それに立ち向かおうとしている人々の姿が重なります。私はどう応えたらよいのか。自分に問い続けます。

### 136 「わが主は静かに」 Ride on, ride on in majesty!

「ホサナの叫びは 群れより起こりぬ」という歌詞を大切に携えます。それでもなお「静かに」「ゆるがず」「黙して」「覚悟の」道を進まれ、そして「雄々しく 死の道」を進まれた主イエスの姿。「勝利」「かがやく み座」「み栄え」という希望への確信とともに、今年は特に抱いていたい。重い歌詞が心に染み入るような曲も効果的です。

### 124 「愛の神のみそばへ」

Eternal Lord, of love, behold your church

出会ったときから、信仰生活の道しるべのように感じている聖歌ですが、今のように自分の信仰に迷い、壁に突き当たりながらも、「日ごとに死に」「日ごとに生まれかわり」、日々新たにされていること、そうやって生涯、キリスト者としての巡礼に導かれていくことを改めて思いました。何があってもイエス様に結ばれている日々を想起するために携えていきたい聖歌です。

### 509 「あなたは岸辺で」

Tú has venido a la orilla

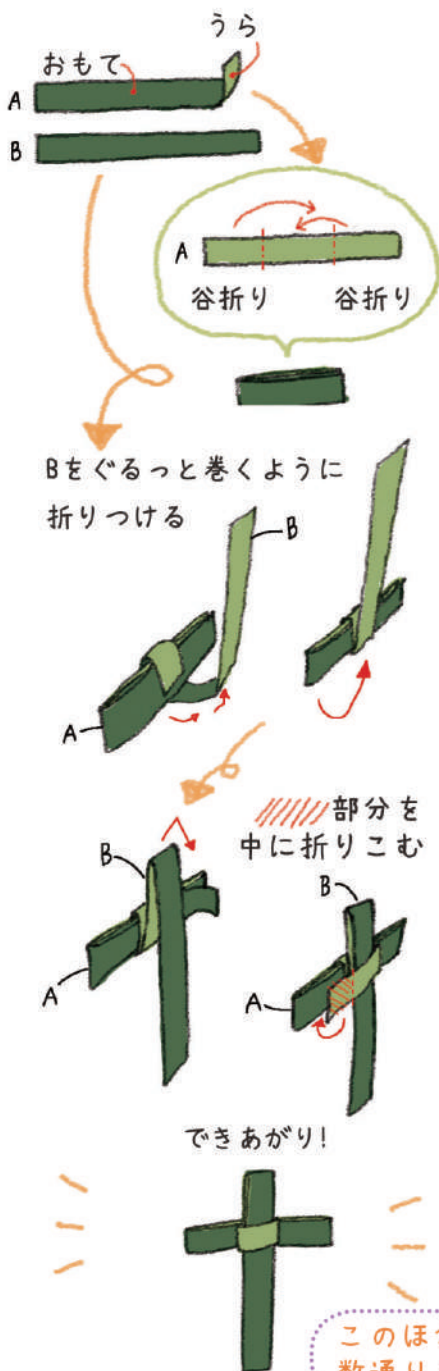
コロナ禍で教会の意義や自分のクリスチャンとしてのアイデンティティが問われ、悶々とする中であって、それでもイエス様はわたしの名前を呼んでくださっている、その網に捉えてくださっているということに、励まされます。恵みの中にすでに居る、それを自覚することが、今の私には信仰の大前提、歩みの確信に繋がるのかなと思って。



# しゅろ 棕櫚の 十字架

斉藤 響子

## 作り方の一例



このほかにも、一枚の長い葉を使うなど、数通りの作り方があります

世間ではよく、クロス（十字）がアクセサリーや飾りとして使われます。「パワースポット」が関心を集めるように、スピリチュアルな雰囲気を感じるからでしょう。それに対して、最もこの世的な思いから遠いクロスが「棕櫚の十字架」と言えるかも知れません。

復活前主日 Palm Sunday の礼拝は、イエス時代の再現ならシュロの枝を各自が持てば良いのですが、日本の聖公会では、葉を十字に組んで用いる習慣が広く行われています。戦前に修道院で始められ広まったようです。その意味は二通り考えられます。Palm は古来勝利の象徴とされてきたので、十字架の勝利を表しているということ。そして、私たち一人一人が棕櫚の十字架を手を持つことによって、「ホサナ」と主を迎えた私が主イエスを十字架につけるのだ、と自覚するためということです。棕櫚の十字架は、聖週の始まりに頂き、翌年、灰の水曜日に用いるためにお返りする、まさに主の十字架を想起させるものとなっています。リタージュカルなものではありませんが、良き習慣と言えるでしょう。他教区には、枝ごと礼拝で用いた後に十字架に作る教会もあるそうです。

皆様は棕櫚の十字架をどこに保管しますか？ 祈禱書や聖書、手帳にはさむ、財布に入れる、家庭祭壇に置く、机の引き出しにしまう…。小さな十字架に折ることによって、持ち歩いたり大切にしまっておいたりするようになります。毎日見たり手にしたりする方は少ないかも知れません。

韓国では、枝のまま家に持ち帰ることも多いようです。大きいため、しまい込むことはありません。ある司祭はこう言っておられました。「自然と日々目にするようになる。それは、葉が乾いていく様子を見て、人の思いや決意は変わることがあっても、神様の約束、主イエスの十字架の愛は決して変わることがない、と心に刻み込んでいくことだ。」

どちらにも大切にしたい意味があります。いずれにせよ、私たちはこの棕櫚の葉を用いた礼拝によって大切な一週間への備えをし、それを身近に置くことによって、うつろいやすい自らの信仰生活を翌年まで励まし続けるのだと思います。

(礼拝音楽委員長)



## 大阪・東京 協働プロジェクトによせて

小野田富美子

『音の出るクリスマスカード』の1シーン。Youtubeに公開した動画は、1月までに3000回以上もご視聴いただきました。 <https://youtu.be/4kZH-Zo8koM>



大阪教区礼拝・音楽委員会から、『音の出るクリスマスカード』で、素晴らしいプロジェクトに協働させて頂いたことへの喜びと感謝をお伝えさせていただきます。コロナ禍にあって、離れている東京の委員の方々と繋がって、クリスマスの喜びを分かち合うことができました。出来上がった動画が本当に素晴らしく涙せずにはいられませんでした。沢山の方々とイエスのご誕生をお祝いすることができました。コロナ禍の思わぬ恵みに、感謝せずにはいられません。

事の発端ですが、大阪でも、コロナ禍により礼拝・音楽委員会の働きができずにおりました。そのような折、東京教区礼拝音楽委員会が発行された礼拝音楽 NEWS がきっかけとなり、9月になって、ようやく委員会を開催しました。しかし、何をすべきか暗中模索のところ、当委員会の辻彩乃さんを通して、同じ礼拝音楽委員会同士、Zoom 懇談会をしませんかとお誘いを受けたのです。

お互いの各教会の礼拝状況や活動状況などについての交流に始まり、協働の可能性についての話し合いをしました。初めは大阪のメンバーも緊張していたのですが、「話し合いや作業を進める中で同じ方向を向いてゴールを目指すことができたのは印象的でした」と辻さんも語られています。前奏と聖歌第102番の編集に携わった内海由美子さんは、「まるでパズルのピースがはまるように、映像のイメージが与えられ、全てが備えられました。まさしく主のみ業だ」と感じたそうです。

何よりも『音の出るクリスマスカード』の実現は、東京の委員の方々の多様なタレントの賜物ではないでしょうか。動画のリリースまで2ヵ月足らずで段取りを進められる作業のテキパキさ、遊び心のセンス、そして最も強く感じたのは聖歌を大切にされる思いの深さです。聖歌を歌えず暗闇の中におられる教会の方々へ、否、すべての人に届く光のメッセージとなりました。

(大阪教区礼拝・音楽委員会 委員長)

英国オルガニスト協会「国際オルガンデー」



inter  
National  
Organ Day



2021年4月24日(土)、英国はじめ世界各地のオルガニストが「楽器の王様」パイプオルガンへの扉を開きます！ RCO サイトでのオンラインフェスティバルには、日本からも聖公会東京教区、バプテスト連盟の奏楽者有志が参加予定。詳しくは <https://www.rco.org.uk/events/international-organ-day-2021>